

生きもののマーク ガイドブック



考えてみませんか？
私たちと生きものたちのつながり

農林水産省



生きもののマーク、始めてみませんか？

生きもののマークガイドブック

考えてみませんか？ 私たちと生きものたちのつながり

発行 平成22年3月
農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1丁目2番1号
TEL 03-6744-2016
<http://www.maff.go.jp/>

制作 株式会社アミタ持続可能経済研究所
<http://www.aise.jp/>

デザイン 株式会社大伸社
<http://www.daishinsha.co.jp/>



このガイドブックは、「平成21年度農林水産生きもののマークモデル事業」の一環として作成を行ったものです。
生きもののマークの情報については、農林水産省や株式会社アミタ持続可能経済研究所のウェブサイトもご覧ください。

(表紙及びp.2～3の写真)宮城県栗原市にて撮影

考えてみませんか？ 私たちと生きものたちの つながり、自然の恵み、共生の物語を分かちあう

農林水産業と生物多様性

少し昔まで、田園では空を覆うばかりのトンボや、賑やかなカエルの声、水路のホタルや様々な魚たちの姿が身近な存在でした。里山では雑木林の中で様々な木の実や虫たちが育ち、野鳥の音が賑やかでした。海辺では、磯や藻場、そして干潟などで多くの魚介類が暮らしていました。

そうした生きものたちがいつの間にか少なくなり、あるいは姿を消していった背景には、私たちの生きものに対する「まなざし」が失われてきていることがあるのではないのでしょうか。どのようにしたら、豊かな環境を育てていくことができるのでしょうか。その答えが少しずつ見つかって始めています。

最近、「生物多様性」という言葉を聞く機会が増えてきました。「生物多様性」とは、それぞれの地域の中で育まれてきた様々な生きものたちが、互に関わりあいながら暮らしている状態を表す言葉です。「生きもの」の中には、もちろん私たち人間も含まれます。

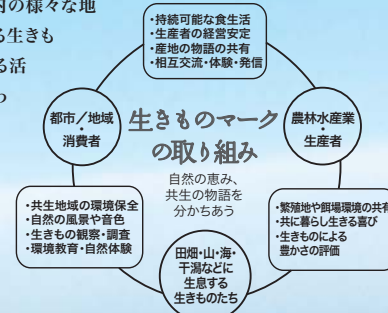
農林水産業は、生きものたちからの恵みなしには成立しません。同時に、その活動を通じて、里地・里山・里海といった多くの生きものが暮らす自然環境を創り出しています。このような農林水産業と生物多様性の相互に支え合う豊かな関係性を未来につないでいくことが、私たちの暮らしを持続可能なものにするために不可欠であると言えるでしょう。

「生きものマーク」とは

現在、日本の各地で、農林水産業の営みを通じて多くの生きものが暮らせる豊かな環境を取り戻す取り組みが始まっています。産物を活用しての発信や環境教育などを行っているケースもみられます。活動のパターンは様々ですが、このような活動を総称して「生きものマーク(生物多様性に配慮した農林水産業の実施と、産物等を活用してのコミュニケーション)」の取り組みと呼んでいます。

生きものマークの取り組みは、特別な認定要件や資格が必要なものではありません。また、産物にラベルを貼り、販売することだけでもありません。農林水産業の営みに関わりながら、豊かな自然環境を創りだそう、そして、その恵みを分かちあおうという想いさえあれば、生産者の方でも消費者の方でも、誰でも始めること、参加することができます。

「生物多様性の保全」というと、特別なことや難しいことのように捉えられがちですが、足もとの自然を見つめ直し、自分一人でもできることから始めてみるのが最初の足かりです。日本国内の様々な地域で展開されている生きものマークに関連する活動も、最初はごくわずかな人の試行錯誤から始まったもののばかりです。あなたも、できることからチャレンジしてみませんか。



【ガイドブックの活用について】

このガイドブックでは、各地に進みつづける、生きものマークに関連する取り組み事例を紹介し、活動を実践に移す際の要点を取り上げています。また、これから取り組みを始めようと思っっている生産者や地域の方々、取り組みを始めたけれど、思うようにうまくいわずに悩んでいる方々に、ぜひ参考にしていただきたいと思います。また、消費者の方にとっても、日々の食生活など暮らしの背景にある生きものたちに想いを巡らせるきっかけとしていただければ幸いです。

※農林水産省は生きものマークの取り組みを推進しています。

もくじ

事例編

- 04 Story 01 渡り鳥の越冬地で展開される様々な取り組み
ふゆみずたんぼ米
- 05 田尻地域たんぼの生きもの調査プロジェクト
かしまだいシナイモツゴ郷の米
- 06 Story 02 コウノトリと共生した米づくり
- 07 Story 03 たかしま生きものたんぼプロジェクト
- 08 Story 04 朱鷺と暮らす郷づくり
- 09 Story 05 阿蘇草原再生シール
- Story 06 湖がよるこぶ野菜たち
- 10 Story 07 美しく収穫の多い森林づくり
- 11 Story 08 紙の向こうに森を視る
- 12 Story 09 次世代へ豊かな海を引き継ぐ
- 13 Story 10 森は海の恋人
- Story 11 海のゆりかごを守る

実践編

- 14 Step 01 見つける・育む
- 16 Step 02 届ける・伝える
- 17 Step 03 分かちあう・広げる
- 18 生きものマーク全国マップ
- 19 用語集

生きものを見つけると、楽しい気分になりませんか。ちなみにこのカエルの名前、知っていますか？



生きものマークに取り組むたんぼは、なんだか賑やか。
[事例編]では、自慢の生きものを見つけ、共生を目指す取り組みを紹介。

農林水産業と生きものたちのつながり、とは何でしょうか？



農業、林業、水産業、それぞれに多様なつながりがあります。
[事例編]では、それぞれの分野での取り組みを紹介。
[実践編]では、つながりをつくり、育むためのポイントを紹介。

生きものマーク、始めてみませんか？



できることから、型にはめず、無理なく楽しく行いましょう。
[事例編]で紹介している取り組みも、最初は小さな一歩から始まったものばかり。
[実践編]では、生きものマークの取り組みを行う際の要点を紹介。



その産物の背景には、どのような物語があるのでしょうか。
[事例編]では、各地で育まれていく物語の一例を紹介。
[全国マップ]にも、あなたがぐっとくる取り組みがあるかもしれません。

生きもの名前やラベルが貼られた産物を手に取ったことがありますか？